岐阜県 岐阜市

中心市街地活性化基本計画 概要

【4期計画：令和5年4月～令和10年3月】

【目指す中心市街地の都市像】

ここにしかない時間の過ごし方をつくり、日常的に訪れたくなるまち

【自治体の概要】

人口：402,982人（R4.10.1・住民基本台帳）、面積：203.60㎢

明治時代の廃藩置県に際し県庁が設置され、伝統の商業都市に併せ県政の中心となって急速に進展。濃尾地震で市街地の約37%が焼失し、その後、柳ケ瀬や神田町通りに商店街が誕生。戦後には、空襲で市街のほとんどが焼失するも、岐阜駅前に繊維問屋街が形成され、それに伴い柳ケ瀬も全国有数の繁華街に成長。

【中心市街地の課題等】

1）日常的な来街の増加

3期目の計画で、特に柳ケ瀬への消費活動目的となる店舗等の集積は一定数※1できた。しかし、柳ケ瀬の歩行者・自転車通行量は引き続き減少傾向※2 、入り込み客数もほぼ横ばい※3の状況であり、消費活動目的となる店舗等により増えた来街は一部の休日やイベント時にとどまっており、平日と休日を含めた来街の増加にまで至っていない。

さらなるまちの好循環を生み出すためには、これまでの消費活動目的の来街者の創出に加え、滞在性の向上といった違うアプローチにより、日常的な来街を増加させることが課題である。

※1　柳ケ瀬周辺エリア（約28ha）の新規出店：約150店（H26.4～R3.6）

※2　歩行者・自転車通行量（柳ケ瀬7地点の合計）：27,171人（H28）→22,586人（R1）［約17%減少］

※3　柳ケ瀬の入り込み客数：11,676人（H28）→11,852人（R1）［約2%増加］

2）まちなかで暮らしたくなるような環境づくり

人口動態は令和3年度には増加※4に転じているものの、大規模住宅供給がない場合は減少する傾向にある。引き続き居住者を確保していくためには、持続的に住宅需要と住宅供給が生み出される環境をつくることが重要であり、そのためには中心市街地が多くの人に選ばれるよう、まちなかで暮らしたくなるような環境づくりが課題である。

※4　居住人口の人口動態：▲165人（H30）→82人（R3）

【計画目標と数値】

方針	目標	目標指標	基準値	推計値	目標値
時間を消費したくなるような魅力づくり	滞在時間の向上	金公園地下駐車場の総利用時間（h）	268,628（R3）	308,203（R9）	318,000（R9）
	来街者数の増加	歩行者・自転車通行量［休日と平日の平均］（中心市街地の21地点）（人/日）	38,600（R3）	37,921（R9）	45,700（R9）
選ばれるまちなか暮らし	まちなか暮らしを選択する人の増加	居住人口の人口動態（人）	▲183（H30～R4累計）	▲855（R5～R9累計）	400（R5～R9累計）

【中心市街地活性化の方針】

◆活性化を図るための大切な視点

○公と民が連携して取り組む　○まちの資源を時代に合わせて活かす、つくり出す

【基本的な方針①】時間を消費したくなるような魅力づくり

柳ケ瀬を核に滞在性の向上に加え、イベントやコミュニティの形成、商店街の店舗など、ハード面だけでなくソフト面も含め、時間を消費したくなるような魅力をつくることで、滞在時間の向上と多様な来街機会の創出を図る。 また、それらの魅力を各エリアで高めることで、中心市街地全体の回遊性の向上につなげる。

➡目標：滞在時間の向上 【金公園地下駐車場の総利用時間】

➡目標：来街者数の増加 【歩行者・自転車通行量】　　全34事業

【基本的な方針②】選ばれるまちなか暮らし

魅力的なまちなかの環境整備を進め、多くの人にまちなかでの暮らしが選ばれるようになることで、新たな居住空間の供給を生み出し、持続的な居住者の確保を図る。

➡目標：まちなか暮らしを選択する人の増加 【居住人口の人口動態】　　全15事業

【前期計画目標と数値】

方針	目標	目標指標	基準値	目標値
まちの魅力となるコンテンツの創出	リノベーションを活用した新たな商業担い手の創出	創業数［遊休不動産等を利活用した、まちの魅力となるコンテンツに資する新たな事業者の数］（柳ケ瀬）	2件（H24年度～H28年度）	21件（H30年度～R4年度）
	広域からも来訪したくなるような魅力の創出・発信による商業の振興	歩行者・自転車通行量［休日と平日の平均］（中心市街地の21地点）	52,173人/日（H28年度）	53,600人/日（R4年度）
		【補完】 柳ケ瀬の入り込み客数［1日平均］	11,676人/日（H28年度）	現状値よりプラスにする（R4年度）
	都市機能誘導施設等の誘導、維持、利活用	都市機能誘導施設等（公共施設）の年間利用者数	2,290,334人/年（H28年）	2,694,000人/年（R4年）
まちの活力を支える居住者の確保	民間活用による居住空間の確保	居住人口の人口動態（中心市街地）	△273人（H25年～H29年の累計）	100人（H30年～R4年の累計）
まちの魅力となるコンテンツの創出＋まちの活力を支える居住者の確保		【補完】 地価［中心市街地の商業地7地点の増減率の平均］	△2.4%（H24年度→H28年度の増減率）	プラスにする（H30年度→R4年度の増減率）

岐阜市中心市街地活性化基本計画の事業概要

時間を消費したくなるような魅力づくり

①柳ケ瀬広場整備事業

柳ケ瀬のさらなる魅力の創出とまちの価値の向上を確実に実現するため、交流空間やレクリエーション空間など、多様な機能を有した広場を柳ケ瀬の中心に整備する。

②リノベーションまちづくり事業

まちづくりに興味がある人たちが、まちの新旧の様々な資源が持つ魅力を活かした体験プログラムを提供すること（「柳ケ瀬日常ニナーレ」の開催）を通して、まちづくりの担い手の育成・裾野拡大を図る。

③岐阜市柳ケ瀬健康運動施設事業

柳ケ瀬グラッスル35内において、隣接する中保健センターと連携し、健康に対する意識や知識を育み、運動を通じた健康づくりを支援する健康・運動施設を運営する。

また、市の施策である都市型のクアオルト健康ウオーキングの拠点として、情報発信やウオーキングの受付を行う。

岐阜市柳ケ瀬健康運動施設内のイメージ

④岐阜市柳ケ瀬子育て支援施設事業

柳ケ瀬グラッスル35内において、遊びを通じて子どもの生きる力を養い、次代を担う子どもを育むとともに、子育て家庭を支援するための子育て支援施設を運営する。

岐阜市柳ケ瀬子育て支援施設内のイメージ

⑤ぎふしスタートアップ支援事業

JR岐阜駅と直結する岐阜イーストライジング24内において、リモートオフィスの運営とスタートアップ相談窓口の二本柱としたスタートアップ支援事業を行い、多様なライフスタイルに対応できる労働環境を提供するとともに、起業者数の増加や新たな事業やサービスの創出などを図る。

スタートアップ相談窓口

選ばれるまちなか暮らし

①柳ケ瀬広場整備事業（再掲）

柳ケ瀬のさらなる魅力の創出とまちの価値の向上を確実に実現するため、交流空間やレクリエーション空間など、多様な機能を有した広場を柳ケ瀬の中心に整備する。

③岐阜市柳ケ瀬健康運動施設事業（再掲）

柳ケ瀬グラッスル35内において、隣接する中保健センターと連携し、健康に対する意識や知識を育み、運動を通じた健康づくりを支援する健康・運動施設を運営する。また、市の施策である都市型のクアオルト健康ウオーキングの拠点として、情報発信やウオーキングの受付を行う。

④岐阜市柳ケ瀬子育て支援施設事業（再掲）

柳ケ瀬グラッスル35内において、遊びを通じて子どもの生きる力を養い、次代を担う子どもを育むとともに、子育て家庭を支援するための子育て支援施設を運営する。